

て清書するのだそうです。それが非常に上手で、ちょうど英習字の手本のようなきれいな書体で書いてあるのです。

私の部屋を「感激の部屋」と言っていました。私が夜十一時前後、寝る前になると実さんが私の部屋に入ってくるのです。そうすると私はすぐ実さんに速記の練習をさせるのです。部屋の中を歩きながら小さい声で話をして、実さんに速記させるのです。そして話がすんだら失礼して私は先に寝てしまうのです。実さんは時間があればその場で速記したのを普通の漢字交じりに直していますが、時間がないときは後で仕事ですんでから直して、何級になったと調べているのです。英語の単語の清書は毎晩夜中にしているようですが、興奮してはよく短歌を作ってくるのです。その短歌がなかなかよくできているので、私はいつも感心していたのです。こういう短歌をいつ作るのですかと尋ねると、仕事の合間に作ると言っていました。「英語の清書をする材料を机の上に積んで下さい。いくらでも片付けます」といつてくれるのです。実に感心しました。たいていの人は、人の手伝いをするにしても、いやいやながらではないにしても、こんなに積極的になる人は少ないのではないかと思うのです。それも一日や二日ではなく、何十日かかるかわからないのに、いくらでも机の上に積んで下さい、みな片付けますといつてくれるのですから、私もその親切に感激するのです。

こういう生活が七十日以上も続いたのでした。私は温泉にいる間に何となく身体の調子が悪くなったの